

## 研究指導教員の決定方法について

マテリアル工学分野 博士前期課程

### ■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、研究指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、シラバスをもとに個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望と成績を考慮して、学生ごとに1名以上を決定する。

### ■希望調査について

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。

### ■研究指導教員の決定プロセス

1. 入試時の面談及び出願書類の志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、入学試験合格者に対して、入学前に修士論文研究の配属希望調査を行い、原則として学生の希望する研究指導教員を調査し、学生の希望を考慮して、分野教授会で研究指導教員を決定する。
2. 入学時までには分野長が、学生に研究指導教員を通知する。

### ■副指導教員制度

1. 副指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導についての相談やアドバイスを行う。
3. 副指導教員は、学生の同意を得た上で、研究指導教員が1名以上を決定する。

### ■研究指導計画

本分野における研究指導計画は、以下の1～6のとおりである。指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次4月～7月）
  - (1) 学生は、決定した研究課題に関して、先行研究の整理、仮説の設定を行い、指導教員とともに研究計画を立案する。
  - (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法、文献検索

方法、文献読解方法などを指導する。

- (3) 学生と研究指導教員は、協力して研究指導計画書を作成し、副指導教員が確認したうえで、分野長に提出するとともに、各自で保管し適宜両者の協議もので修正を加える。

## 2. 研究の遂行（1年次8月～2年次12月）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。2年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集、解析等を行い、研究結果をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査方法、結果のまとめ方および考察の方法について指導する。
- (3) 指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。
- (4) 指導教員及び研究科教授会は研究の進捗状況について、1年次1月と2年次7月に確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

## 3. 研究経過の中間報告（1年次12月）

修士研究の経過について、分野全体の中間報告会を1年次12月に実施する。その際、研究指導教員以外の分野教員からも指導や助言を受ける。

## 4. 修士論文の作成（2年次12月～2月）

- (1) 学生は研究成果をもとに修士論文の作成を行い、研究指導教員のもとで修士論文をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究結果の精査や考察について指導するとともに、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等について助言し、論文全体のまとめ方を指導する。

## 5. 修士論文の提出（2年次2月）

学生は修士論文を2月の指定された期日までに提出する。

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、副指導教員の確認を経て、期日までに分野長に提出する。

## 6. 修士論文の審査（2年次2月～3月）

学位論文審査委員（主査、副査）を決定し、修士論文、要旨、および修士論文発表会の内容を審査し、工学研究科教授会（運営委員会）で審議する。

## 研究指導教員の決定方法について

マテリアル工学分野 博士後期課程

### ■研究指導教員の役割

1. 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、研究指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う教員である。
2. 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、シラバスをもとに個々の学生の指導を行う。
3. 研究指導教員は、学生の希望と成績を考慮して、学生ごとに1名以上を決定する。

### ■希望調査について

1. 志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の入学願書に「指導を希望する教員」、志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。

### ■研究指導教員の決定プロセス

1. 入試時の面談及び出願書類の入学願書に記載の「指導を希望する教員名」および志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」をもとに、分野教授会において研究指導教員を1名以上決定する。
2. 入学時までには研究指導教員を通じて、学生に研究指導教員を通知する。

### ■副指導教員制度

1. 副指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う教員である。
2. 副指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導についての相談やアドバイスを行う。
3. 副指導教員は、学生の同意を得た上で、研究指導教員が1名以上を決定する。

### ■研究指導計画

本分野における研究指導計画は、以下の1～8のとおりである。指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

1. 研究計画の立案（1年次4月～7月）
  - (1) 学生は、決定した研究課題に関して、先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究計画を立案する。
  - (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法、文献検索

方法、文献読解方法などを指導する。

- (3) 学生と研究指導教員は、協力して研究指導計画書を作成し、副指導教員が確認したうえで、分野長に提出するとともに、各自で保管し適宜両者の協議もので修正を加える。

## 2. 研究の遂行（1年次8月～3年次10月）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に研究方法の確立、予備実験、調査などを行う。2年次および3年次では、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集、解析等を行い、研究結果をまとめる。最終的には研究結果をまとめ、学術雑誌に投稿する。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査方法、結果のまとめ方および考察の方法について指導する。
- (3) 指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副指導教員に明示する。
- (4) 指導教員及び研究科教授会は研究の進捗状況について、1年次1月と2年次7月に確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

## 3. 研究経過の中間報告

博士研究の経過について、研究指導教員は学生の研究経過について報告会を行い、研究全体の構成の確認および進捗状況の確認を行う。

## 4. 博士論文の作成（3年次10月～12月）

- (1) 学生は研究成果をもとに博士論文の作成を行い、研究指導教員のもとで博士論文をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究結果の精査や考察について指導するとともに、博士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等について助言し、論文全体のまとめ方を指導する。

## 5. 博士論文の提出（3年次1月）

学生は博士論文を1月の指定された期日までに提出する。

## 6. 博士論文の予備審査（3年次2月～3月）

博士研究で得られた成果に応じて、主査候補教授1名、副査候補教授2名以上を決定する。主査および副査候補は博士論文の提出までに予備審査を実施し、問題点を指導、助言する。

## 7. 学位授与申請（3年次1月～2月）

学生は博士論文や要旨などを指定した期日までに提出する。

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、副指導教員の確認を経て、期日までに分野長に提出する。

8. 学位論文の審査（3年次1月～3月）

学位授与の申請が受理されたとき、工学研究科教授会（運営委員会）で学位論文審査会を設置する。学位論文審査会は、学位論文を審査するとともに、公聴会や最終試験を実施する。